

田舎学の構築

—遊作の試み

杉村和彦(福井県立大)



田舎学への現代的背景

- 「田舎」への新しいまなざし
- 「田舎」雑誌の中に
- 主体性の田舎学
- 捨てられた地域資源
 - 耕作放棄地
 - 伝統技術
 - 古民家一手作りの世界の結晶

「田舎学」という構想

- 「着土の時代の中で」
- 「地元学」と「田舎学」
- 「田舎学」の創造
- 「田舎学」のパースペクティブ
 - 1) スローライフと田舎学
 - 2) 自給的な世界の豊かさ
 - 自立、自律、自存
 - 3) 非効率性の価値

今立モデル



田園工芸一特に和紙が有名
農工複合社会
ものづくりの現代的再生

福井県は職人文化が基層にある。

遊作のコンセプトとは

★匠と遊ぼう、匠も遊ぶ

「学年に1~2人くらいは上手な人がいて「将来、紙を漉かんか?」と言って見るんですが、首を立てにはふってくれない。けれど、ああいう子供には備わっているものがあるので、他の物を作らせても上手だろうと思うんです。そういう子と遊べるなら私も遊びたいので、遊作塾のような機会を是非増やしてください。遊びましょう!」人間国宝、岩野市兵衛談



公開講座実践編



囲炉裏をつくろう



囲炉裏で食べよう



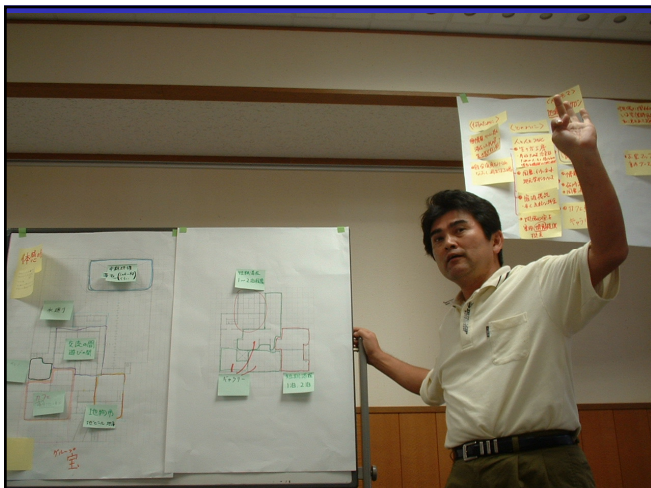
木組みの技のあれこれ



和紙作りと国宝



古民家の再生プラン



和紙の遊作(日時計)



ランプシェードをつくろう





田舎料理を遊作する



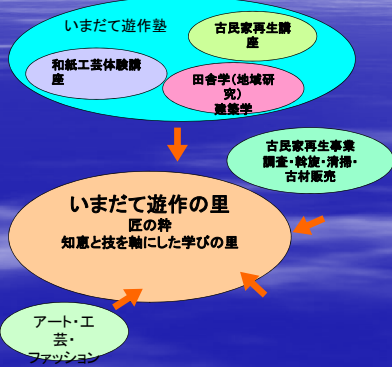
遊作ライブ



公開講座



田舎学を構想する



世界とつながる田舎



タンザニアからの客人



埋もれた文化を主題化する

- 耕作放棄地、古民家など埋もれた文化をどのように現代社会の中に意味あるものとして提起していくか。地域にはさまざまな匠がいる。
- 遊作の経験のあれこれ
「匠」との連帯の道具としての遊作。
「遊び」の場であれば地域の人として気軽に参加できる

田舎と田舎をつなぐ

- このプロジェクトの中で、日本の「田舎」作りの源流とも言える大分の安心院を訪問。
- 大分・安心院方式
「親戚圏」「商工歓交課」

田舎と世界をつなぐ

- 1) フランスー日曜大工の教え
フランスの人が趣味として力を注ぐ最大のもは日曜大工である。
- 2) タンザニアー自給世界の豊かさ
その豊かさの背後に「分ける」という世界がある。

遊作の希望

- 1) 可能性の場としての田舎
手作り、スローライフの許容度
- 2) 「遊作」の可能な場としての「田舎」を創る
- 3) 田舎の「遊作」を鍛えて都会に打って出る

- 御静聴ありがとうございました。